

〔研究随想〕

中国農村小学校における郷土教育

範 懿^{*1}

Local Education in Chinese Rural Elementary Schools

Yi FAN^{*1}

Abstract

This study aims to elucidate the objectives and future avenues of school space planning for local education in China's rural areas by examining rural elementary schools. Therefore, this study investigated the following six key areas: 1) defining local education; 2) exploring its development and implementation status; 3) assessing the achievements of local education; 4) identifying current challenges; and importantly, 5) forecasting the design of school spaces that align with the future needs of local education.

Key Words :Local Education, School, Rural, Planning, Space

1. 研究背景・目的

経済が急速に発展してきた中国社会では貧富の差が拡大すると共に、都市と農村間の教育力・学校施設の格差も広がっている。特に、学生数の減少や教師の力量と運営資金の不足などの農村部学校における学校運営に関する問題が深刻化している。また、長らく応試教育という知識偏重教育が学校教育の中心的イデオロギーであったが、1980年代後半から実施されている教育改革の中で、素質教育という自主性や創造性を重視した教育方針が施策として掲げられている。それと同時に、農村部では、素質教育の内容と繋がっている郷土教育も展開されている。そこで、郷土教育はどう発展してきたのか？その実施状況はどうなっているのか？郷土教育の要求に適した学校空間の状況はどうなっているのか？郷土教育は農村部の教育の発展を促進できるのか？学校運営の問題を解決できるのか？郷土教育の実施とそれに対応する空間の創出をより強化する必要があるのか？本研究は、以上の6つの疑問をめぐって、郷土教育の発展、実施状況、成果、既存の問題点及び郷土教育に対応する空間計画の発展の方向性について考察したものである。

2. 郷土教育の定義

郷土教育は我が国において特別な概念で、身近な郷土の自然、文化、歴史を教育の資源とし、学習と生活実践を結合させた多様な形式で行われる教育活動を指し(裴娣娜 2010)、さらには、学生が自分の生まれ育った、或いは長年居住した地域に対する理解と認識を基礎に、その郷土への愛着を喚起し、郷土への関心と同一意識を持たせ、自らの能力を用いて郷土の環境を改善し、国家の同一意識教育を促進することを指す(謝治菊 2011)。筆者は、郷土教育は素質教育という大きな枠組みに対する一つの有力な補足であり、素質教育の農村の学校における具体的な実施形式であると考えられる。よって、郷土教育は農村で展開する素質教育であると理解することができる。

3. 郷土教育の発展

郷土教育は古くて新しいテーマであり、我が国の基礎教育の重要な構成部分である。早くは光緒29年11月(1904年1月)清国政府が公布した『奏定学堂章程』は既に初等小学堂における郷土の歴史と地理のカリキュラム開設を明確に規定

^{*1} 久留米工業大学 建築・設備工学科

している。この後、郷土教育が正式に学校教育の範疇に組み込まれ、専門的な郷土教育教材の編纂や他の学科の教学活動に浸透させる形で展開した。例えば、国家地理のカリキュラムにおける郷土地理、歴史カリキュラムにおける郷土歴史など。この種の浸透モデルは今も続いており、国家の教育カリキュラムにおける分散式郷土教育を形成した（張亜強）。改革開放以来、我が国の基礎教育は輝かしい成果を獲得し、基礎教育カリキュラムの構築も顕著な業績を達成した。しかし、我が国の基礎教育のレベルはまだ高くはなく、従来の基礎教育カリキュラムはすでに時代の要求に十分応えられなくなっている。中でも郷土教育はより巨大な障害や困難に直面し、それが農村の郷土教育の全体的な低迷を引き起こしている。『中共中央國務院教育改革と全面的な素質教育の推進に関する決定』と『國務院基礎教育の改革と発展に関する決定』を貫徹させるため、教育部は基礎教育カリキュラム改革の大々の推進を決定し、基礎教育のカリキュラムシステム・構造・内容を調整し改革し、素質教育の必要に応じた新しい基礎教育カリキュラムシステムを構築し、2001年6月、『基礎教育カリキュラム改革綱要（試行）』を公布し、これによって教育カリキュラム管理を国家・地方・学校の三段階で実行するシステムを確定した。国家の基本的要求と指導に基づく教材の多様化政策が実行され、関係機関や出版部門などの国家カリキュラムの基準に基づいた小中学校教材編纂を支持し、郷土の教材を使用することで、全国統一の教材が地方の郷土知識に乏しいという問題に変化をもたらした（張亜強 2013年）。この綱要の公布は、地方色豊かなカリキュラムや学校独自のカリキュラムの開発に政策的支持と発展の可能性を提供すると同時に我が国の少数民族地区の郷土教育の発展をも促進した（裴娣娜 2010）。

4. 郷土教育の成果

近年、国家の関係部門の支持、地方政府と民間人士の努力の下、郷土教材の収集と編纂に大きな成果が生まれ、これら地域文化の特色を具えた教材が教育現場に取り入れられ、多くの教師や学生に高く評価された（鄭和平 2020）。特に辺境地域の農村の微型学校（微型学校とは通常学生数が百人不足、各学年がそろわないことが多く、教師が10名以下であり、教師の高齢化が深刻な学校を指すも現在郷土教育を展開している。これらの微型学校が団結して微型学校発展連盟^{註1}を形成し、教育の質向上と学齢期のすべての子どもが近くの学校で上質な義務教育を受けられることを志し、さらに、一校一特色、一校一テーマという学校文化の形成を通して地域の特色を具えた優れた学校を創設して、農村及び辺境山岳地域の教育のバランスが取れた発展を目指した（図1～図6）。連盟に加盟している各学校は農村の豊かな生態環境を十分に発揮し、カリキュラム作成に当たって農村の広々とした自然環境を利用し、子どもたちに郷土の田野で知識を学ばせた。例えば、地元の伝統文化に着目する学校、地元の農作物を絵画に描く芸術課程を設けた学校、農耕文化に着眼する学校、社会实践活动の展開を重視する学校などがある。目下のところ、農村の微型学校の教師数、学生数において「形勢逆転」現象が見られる。学生数が毎年増加しており、同時に教学の質の評価において、一部の農村の微型学校の順位はすでに都市部の学校を超え、各区や県の上位ランクに付けている。このことから、郷土教育を徹底して遂行すれば、素質教育の実施に役立つだけでなく、現在大多数の農村の小学校が直面している学生が少なく教育の質が低いという問題に一定の積極的改善推進効果をもたらすことが見て取れる。



Fig.1 範家小学校の班家文化



Fig.2 石羊小学校の放課後の農業実践基地



Fig.3 龍王小学校の農耕文化教育実践



Fig.4 白朝小学校の先生が剪紙を教えている



Fig.5 民族小学校の郷土教育課程—民族文化



Fig.6 金洞小学校の社会実践活動

5. 郷土教育の現在の問題

少数の先進的的地方や学校が郷土教材の編纂や郷土教育の実践においていくつかの成功経験を積み上げているものの、全体的に見れば、郷土教育の全国的発展はいまだ非常に不均衡で、大多数の学校は決して実際の支援を得ていない。指導部から末端、学校から社会、多くの人は郷土教育に対する認識が浅く、甚だしくはそもそも認識すらしていない(鄭和平 2010年)。また、小中学校の郷土教育には、教学方法、教材、教師の質、資金などの面で以下のような問題がいまだに存在している。

1) 「撤点并校（農村部の小規模な小中学校を閉校して、子どもたちを都市部の学校へ通わせる教育施策）」が教育と郷土を切り離した

グローバル化、都市化、現代化の加速に伴い、人々が仕事を求めて大量に都市部へ流出したことにより農村のエンブレティネストをもたらし、それによって郷土教育の基礎を揺るがし、農村学校の統廃合と寄宿制学校の出現は、児童の成長環境を家庭や地域から都市部の閉鎖的學校へと移し、統一的な受験教育カリキュラムが教育と郷土の関係を切り離した(張亜強 2013)。

2) 教師の力量が不足しており、専門性も低い

「経費不足で長期発展を支えきれず、教学の質が保証できず、教師の質の問題が深刻で、管理の整理と強化が待たれる」これらが多くの地区の郷土教育の現状である。

中国農村小学校における郷土教育

3) 教学方法が単一

現在、多数の学校が採用している授業形式はいまだに、教室で郷土の地理や民間の習俗などの知識を紹介することに限られていて、郷土の環境と有機的に結び付いた実践型教学活動の実施が欠けている。

4) 郷土の教育資源の利用と開発を軽視している

多くの学校は郷土教育資源の開発は、ただ学生に関連知識の教科書を提供することだと誤解しており、実地調査による地元の資源発掘をおろそかにしているため、学生はただ受け身的に書面の紹介を受け入れている。郷土資源開発と実際の教学が密接な連携を欠くため、教学活動は個性豊かな郷土環境を失っている（呉惠青、金海燕 2012）。

5) 郷土技能の実践的習得を軽視している

大多数の農村学校は依然として進学受験に関する知識の伝授と試験に対応する技能の訓練を重視しており、農業生産に関する郷土技能の育成を軽視している。

6) 郷土への愛着を体験によって育む取り組みに欠く

長期にわたる都市化という価値方向の影響で、学校は教育課程において学生の郷土を愛する情操教育を怠ってきたため、学生の故郷建設への責任意識を養うことができなかった。そのため、多くの農村の子どもは都会生活へ熱烈な憧れを抱き、「ここに生まれ、ここで育った」という農村的感情には疎い。

6. 郷土教育の要求に適した学校空間

以上郷土教育が現在直面する主要な問題を総括すると、郷土教育の実施にはまだ非常に大きな向上と発展の余地があると分かる。

同時に私たちはもう一つの重要な課題を見逃してはならない。それは郷土教育の実践を支える学校空間の発展という問題である。現在、農村学校には郷土教育の更なる展開を支える新しい意義を持つ学校空間が欠けている。ここで、一つの例を挙げてこの点を証明したい。

前文で言及した微型学校発展連盟に加盟するある学校は郷土教育カリキュラムを開設するために、学生減少によって大きく余った教室空間という特性を利用して、学校の必要に基づいて教室空間の改造を独自に行った。例えば、教室の多機能化で、子どもたちが授業を受けたり、字を書いたり、書籍を精読したり、資料を探したり、ゲームを楽しんだりするすべてのスペースを一つの教室に集めたのである。また、ソファ、茶器を乗せる小テーブル、整理ダンス、書架、カーテンなどを教室に配置し、壁の色を変えることで「家」のような、調和的な温かい雰囲気のある教室環境を造り出した。この種の使用者の自発的な改進行為は学校が郷土教育に適した学校空間拡大を潜在的に必要としていることを側面から証明している。よって、筆者は素質教育という枠組みにおける郷土教育に適した学校空間建築の創造は、今後の建築業界にとって一つの重要な議題となるとみている。

7. 結 語

以上郷土教育の成果の分析を通して、素質教育の補充剤・強化剤としての郷土教育は農村学校の学校運営問題解決に役立ち、同時に農村や辺境山岳地域教育のバランスの取れた発展に一定の積極的効果をもたらすことが分かる。また、2017年、党の第19回大会報告で農村振興戦略が打ち出されて以来、我が国は農村振興戦略を大々的に実施し始めた。農業農村の現代化の実現を加速し、農業を希望ある産業とし、農民を魅力的な職業とし、農村を楽しく働き安心して生活できる美しい故郷たらしめる戦略である。そして、農村の振興には農村の人材による支えが欠かせない。農村の文化人材の発掘や育成の強化は一刻も猶予できない。このため、筆者は、郷土教育は農村振興戦略において非常に重大な作用を及ぼしていると考えられる。この戦略の実施をより良く支持していくために、郷土教育の全面的普及とその要求に符合する学校空間の創造もこれから検討する必要がある。

謝 辞

本稿は「公益財団法人トヨタ財団」2018年度研究助成プログラム(一般助成)(共同研究助成 D18-R-0082)による研究成果の一部である。

注 釈

- (1) 広原市利州区における微型学校發展連盟は、区委員会、区政府、区教育局の指導のもと、2014 に正式に設立された。この連盟には、立州区の14微型小学校が含まれている。

文 献

- (1) 赵晗, “农村微型学校生存与发展的若干思考”, 教学与管理(小学版), No. 10 (2017), pp. 4-6.
(2) 谢妮, “贵州省民族民间文化教育现状研究”, 贵州民族研究, Vol. 29, No. 3 (2009), pp. 141-146.
(3) 吴惠青, 金海燕, “基于综合实践活动的农村学校乡土教育研究”, 浙江师范大学学报(社会科学版), No. 5(2012), pp. 106-110.
(4) 四川省广元市利州区教育局, “探寻农村微校发展密码 构建区域良好教育生态”[中国农村教育, No. 12(2017):pp. 40-42].
(5) 邓和平, “从民族位育之道看现代乡土教育重建”, 武汉大学学报(哲学社会科学版), Vol. 63, No. 2(2010), pp.301-306.
(6) 吴惠青, 金海燕, “基于综合实践活动的农村学校乡土教育研究”, 浙江师范大学学报(社会科学版), No. 5(2012), pp.106-110.
(7) 裴丽娜, “教育创新视野下少数民族地区乡土教育的思考”, 中国教育学刊, No. 1 (2010), pp. 48-50.
(8) 张业强, “以中小学课堂为基地, 构建乡土教育体”, 贵州师范大学学报(社会科学版), No. 2 (2013), pp. 142-145.
(9) 谢治菊, “乡土教育: 概念辨析、学理基础与价值取向”, 贵州师范大学学报(社会科学版), No. 4 (2011), pp. 117-122.